



# おにざわ 鬼沢の鬼神

## はじめに

青森県の岩木山は、山の字そのま  
まの美しい姿から津軽富士と呼ばれ  
て親しまれているとともに、古来、  
霊峰として崇められてきました。3  
つに分かれた山頂は、南側から烏海  
山、中央の主峰が岩木山、北が巖鬼  
山と名付けられ、中でも巖鬼山は赤  
倉山とも呼ばれて、鬼神が住むと畏  
れられてきました。赤倉山の鬼神  
は、山人や大人とも呼ばれ、岩木山  
周辺には彼らに関する伝承が数多く  
残されています。

その中でも東の麓にある鬼沢とい  
う集落では、私たちが鬼に抱く恐ろ  
しいイメージとは裏腹に、赤倉山の  
鬼を大切な農業神として祀っていま  
す。なぜなら、その昔、田を拓くた  
めの灌漑用水路を、鬼が一夜にして  
造ったからだと言うのです。

## 鬼沢の鬼神堰

それでは鬼沢に伝わる鬼神の伝説

## 鬼神社の御神体

鬼沢の鬼神社には、巨大な鉄の鋤  
や鍬などの農具が奉納され、御神体  
はポロポロに錆びた50cmくらいの鉄  
の平鍬の刃であることが確認されて  
おり、伝承がある程度事実を伝えて  
いることが分るとともに、鬼沢に  
とって鉄製の鍬の刃が神として祀る  
ほど感謝すべき物だったことがわか  
ります。



鬼神社には鉄製農具が奉納されている

## 逆さ堰

また、鬼神堰の別名である逆さ堰  
の名の由来ですが、実際に水が逆さ  
に流れているように見える場所が確  
認されています。これは鬼神の魔力  
ではなく、適正な勾配を求め、山腹

をご紹介しましょう。  
「鬼沢が長根派と呼ばれていたこ  
ろ、村に正直で温良な弥十郎とい  
う人がいた。ある日、弥十郎が山へ狩



岩木山

から山裾をグネグネと縫うようにし  
て水路を通したからであり、それを  
成すにはある程度正確な測量技術が  
必要だったと考えられます。

## 鬼平之

ここで花部英雄氏の論稿「山人と  
は誰か」で紹介する秋田県藤里町向  
真名子の水無沼というため池造成の  
話をご紹介します。江戸時代の  
旅行家であった菅江真澄は、享和2  
年(1802)にここを訪れ、この  
沼は大力の平之という者が一夜にし  
て造ったという聞き書きを残してい  
ます。実際には、この辺りの灌漑は  
梅津政景という佐竹藩家老の手に  
よってなされており、元和2年(1  
616)にトンネルを含む12kmの用  
水路を引く大工事が行われました。

ここで花部氏は、菅江真澄が「平  
之」と呼んだ鬼と、梅津政景が開い  
た「比井野」という地名が似ている  
ことを指摘しています。梅津は家老  
になる以前に銀山奉行の職にあり、  
院内銀山の「大水貫」の難工事を完  
成させており、そのときの技術者を  
「比井野」の開発のために用いて、  
そこに住ませたことから彼らを鬼  
平之として伝えていたのではないか  
というのです。

## 岩木山の製鉄遺跡

民俗学者の若尾五雄氏は、鬼と金  
属が密接に関係し、鍛冶師や鋳山師



鬼神堰の水路

りにいくと山人に出会った。それか  
ら時々行き会おうちに友人になつ  
た。ある時、弥十郎は田を拓きたい  
と考え、山人に相談した。それから  
山人が開墾を手伝うようになり、数  
町の田を拓くことができた。しか  
し、水に恵まれなかったため、時々  
渴水してしまった。そのことを山人  
に言うと、一夜にして忽然と水が引  
かれ、田は潤った。山人は赤倉山の  
深い谷から大石を砕き、凸凹などこ  
ろも水勢を引き延ばして田まで水を  
引いたのだ。このことがあつてか  
ら、鬼が引いた水路を逆水沢と言  
い、村の名前を長根派から鬼沢と変  
えた。

しかし、弥十郎の妻が、山人が働  
く様子を盗み見ていたため、山人は  
開墾中に用いた蓑笠鍬を弥十郎に授  
けて去っていった。そして山人が残  
した蓑笠鍬は、堂社を造って祀るこ  
とにした。これが鬼神社であり、今  
にいたるまで鬼沢が栄えているのも  
など金属に関わる人々が鬼と呼ばれ  
ていた可能性を説いています。

岩木山の北麓地域では西津軽郡  
鰺ヶ沢町の空沢遺跡をはじめとす  
る、大規模な「たたら製鉄」の遺跡  
が発見され、古代から近世初期にか  
けて製鉄や製鋼、鍛冶が行われてい  
たことが明らかになっています。  
こうした製鉄民や鍛冶師が何者で  
あったかわかりませんが、例えば中  
央から津軽に進出し、津軽三千坊と  
いわれた多数の寺社を築いた修験者  
たちであるとか、中国大陸や朝鮮半  
島から鉄の技術を持ってやって来た  
渡来人ではないかななどの説があり  
ます。

たたら製鉄では原料の砂鉄を山の

この因縁によるものだ」

## 実在する鬼神堰

鬼が造ったという灌漑用水路は鬼  
神堰、または水が下から上へと逆流  
しているように見える箇所があるこ  
とから逆さ堰とも呼ばれています。  
鬼神堰は実在し、今でも鬼沢の田畑  
を潤していることから、鬼神の伝承  
は全くの創作ではなく、事実に基づ  
いていると考えられます。

弘前大学大学院教授の畠山篤氏は  
「岩木山の神と鬼」にて「津軽郡中  
名字」という古文獻に「鬼沢」の村  
名があることを確認しており、伝承  
には鬼神堰の工事が終わってから村  
名が「長根派」から「鬼沢」に変  
わったとあることから、鬼神堰は  
「津軽郡中名字」が編まれた天文12  
年(1543)以前には、既に造ら  
れていたこととなります。では、そ  
のような時代に鬼神堰を造った鬼神  
とはいったい何者なのでしょう。

斜面を切り崩して採取してしました  
が、例えば水流を利用して崩す方法  
では、水を導くために2〜3里の遠  
方からでも水路を設け、谷間には木  
管を渡したといえます。こうした採  
鉄には、まさに灌漑用水路を引いた  
技術が用いられていたのです。  
鬼沢の鬼神堰の建設には、そうし  
た岩木山に棲む金属の民が、製鉄や  
鍛冶の技術で鉄製の農具を作り、正  
確な測量を行って山裾に用水路を引  
いたという古い昔の記憶を伝えてい  
るのかもしれない。

## おわりに

金属に関わる人々が鬼と呼ばれて  
いたことは通説となっていますが、  
最近では土木技術者が鬼と呼ばれて  
いた可能性も指摘されました。用水  
路のトンネル建設に鋳山師が関わっ  
ていたことが明らかとなり、鬼と呼  
ばれた鋳山師らが土木事業に関わっ  
ていたことから、土木技術者も鬼と  
呼ばれていたかもしれないというの  
です。

しかし、この説は単なる三段論法  
で、史料の裏付けはありません。ま  
た、例えば常民の世界と異なる鋳山  
で働くことが、鬼と呼ばれる条件な  
らば、職場を変えても鋳山師が鬼で  
あり続けることができるのか疑問で  
す。面白い説ではありますが、課題  
は多いように思えます。

(文：江口知秀)

鬼神社の鳥居 鬼沢の鬼は善い鬼であるため、鬼の字に角がない(青森県弘前市)